

# 第2次 羽幌町教育大綱

(令和4～13年度)

令和5年2月

北海道羽幌町

## 羽幌町教育大綱の策定に当たって

### 【はじめに】

この大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第1条の3の規定に基づき、本町の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策とするため策定したものであります。

また、本町の最上位計画であります「第7次羽幌町総合振興計画」を勘案するものとして、同計画で掲げる教育に関する内容を踏襲しております。

今後におきましても、学校教育や社会教育のさらなる充実を図り、福祉、地域振興などの一般行政と密接に連動させながら、教育行政の総合的な推進を図ります。

### 【期間】

大綱の期間は、令和4年度から、羽幌町総合振興計画の目標年次であります令和13年度までとし、うち、基本方針は令和8年度までを前期、令和9年度からを後期として5年間で見直しを図ります。



## 《基本目標》

### 「教育・文化・交流の振興」

将来を担う子どもたちが夢と希望を持ち、未来に向かって成長することができる環境づくりと、子どもから高齢者までの誰もが充実した生活を送ることができる環境づくりに取り組みます。

また、町民一人ひとりの個性を尊重し、生涯学習や生涯スポーツ、芸術文化の振興を図るとともに、国内はもとより海外との交流機会の充実を図ります。

## 《前期 基本方針》

### ① 学校教育の振興

#### 《 現況と課題 》

本町の児童生徒における学習環境の充実を図るため、教科書の改定や指導要領の改訂に沿った指導書などの整備や児童書の入替えのほか、未耐震施設の対応や随時進行する老朽施設への対応など、時代にふさわしい教育環境を構築する必要があります。

また、地域の維持・発展において高校の存在は重要であり、町立天売高等学校では、魅力発掘と学校存続のため、域外からの生徒を受け入れており、今後も特色ある授業の実施が必要と考えています。

道立羽幌高等学校においても入学者確保のため、魅力ある学校づくり、保護者の負担軽減を図る支援などの取り組みが求められています。

更に、教職員住宅については、住環境の変化や老朽化に伴って維持困難な住宅が増えており、教職員住宅の在り方の抜本的見直しが課題となっています。

#### 《 施策方針 》

- ・学校施設の安全性の確保に努めるとともに、未耐震施設の対応や老朽化施設の対応に努めます。
- ・多様な学習形態や情報化の進展など、時代に即した学習環境整備を目指します。
- ・学校生活に問題を抱える児童生徒に対する相談体制などの充実を図ります。
- ・天売高校の特色である地域と連動した学習活動を継続するほか、生徒の確保に努めていきます。
- ・羽幌高校の魅力ある学校づくり支援として、部活動・生徒資格取得費・進路活動費の支援を継続します。
- ・羽幌高校入学者確保のため、入学準備金・町外生徒の通学費などの支援を継続し、進学に係る保護者の負担軽減を図ります。
- ・教職員住宅の適正な維持管理に努めるとともに、民間住宅の活用など、時代の変化に即した住宅の供給を目指します。
- ・安心安全な給食を提供するため、老朽化した設備の計画的な更新を実施し、食育の推進・地場産品の利用など適切な学校給食運営に努めます。

## ② 幼児教育の振興

### ◀ 現況と課題 ▶

本町は市街地区に私立認定こども園、私立幼稚園、天売地区に認可外保育施設があり、それぞれの特色を生かした教育活動が行われていますが、近年は地域の連帯感の希薄化が進んでいます。地域の子どもは地域で育てるという意識を醸成し、関係機関と連携を図りながら、地域全体で幼児教育を支援していく体制づくりが重要です。

また、生活環境の違いや価値観の多様化などにより、全ての親子が芸術鑑賞などの事業に参加している状況ではありませんが、今後は親子が出会い・語り・交流するような学びの場を充実させていく必要があると考えます。

### ◀ 施策方針 ▶

- ・関係機関と連携し、親子参加型の体験事業の充実に努めます。
- ・幼児期における芸術鑑賞事業を継続するなど、アウトリーチ活動（※）に努めます。

※アウトリーチ活動…outreach 英語で「手を伸ばすこと、差し伸べること」という意味を持つ。ここでは文化芸術に触れる機会が無い人の興味と関心を高めることを目的とした芸術鑑賞事業などを指す。

## ③ 特別支援教育の振興

### ◀ 現況と課題 ▶

本町では、児童生徒に適した学びの場の決定に係る「巡回教育相談」や「就学相談」に携わり、一人ひとりに適した指導方法や在籍学級を決める際の判断材料としています。

今後も特別支援学級に必要な支援員の配置を継続していきますが、年々、対象児童生徒が増加傾向にあることから実情に応じた支援が必要となっています。

### ◀ 施策方針 ▶

- ・特別な支援が必要となる児童生徒に対して、適切な指導及び必要な支援を行います。
- ・教育支援員については、各学校と協議のうえ適正な人員配置に努めます。

## ④ 生涯学習の振興

### ◀ 現況と課題 ▶

町民一人ひとりが、生涯にわたって生きがいと自己実現を求め、自発的・主体的に学習できるような環境整備が求められているとともに、多様化する町民のニーズに応じた学習機会を提供し、学習成果が地域社会の中で適切に評価される豊かな生涯学習社会を築いていくことが求められています。

本町では、公民館、図書室、資料館などが町民の学習の場として活用されており、今後は旧児童会館や資料館をはじめとする単独施設の老朽化による対応が求められていることから、人口規模や地域のニーズに応じた生涯学習の拠点となる複合化施設を検討していく必要があります。

また、新たな利用者のニーズに幅広く応えるためには専門職員の配置や職員・指導者の資質向上を図るとともに、関係部署や各種団体などとの連携を促進し、生涯学習推進体制の整備充実を図る

ていくことが課題となっています。

#### 《 施策方針 》

- ・生涯学習施設の整備充実に努めます。
- ・生涯学習推進に係る、専門職員の配置などの体制整備を検討します。
- ・市民の主体的な学習活動を支援します。
- ・多様な学習機会の充実に努めます。

### ⑤ 地域交流の推進

#### 《 現況と課題 》

本町は、姉妹都市である石川県内灘町と長年にわたり小学生を中心としたスポーツ団体などによる交流を継続してきましたが、近年は両町の歴史・文化に関わる青少年交流にシフトしており、今後より一層の交流を図りながら両町の「あゆみ」を次世代に継承していく必要があると考えます。

また、神奈川県海老名市と平成30年に「元気な地域づくり」交流宣言、令和元年に「防災協定」を締結するなど、地域間の交流事業などを通じた連携と、相互の発展に向けた取り組みが始まっています。

更に、人口減少が続く本町においては、地域の外から、地域や地域の人々と多様に関わる人材「関係人口」の創出を図ることが重要であり、それに向けて地域の魅力を全国へ発信していくことが必要です。

#### 《 施策方針 》

- ・地域間交流の充実に努めます。
- ・地域住民、団体などによるまちづくり活動やコミュニティ活動を支援します。
- ・地域の魅力や取り組みを積極的に発信し、地域を応援してくれる関係人口の増加を目指します。

### ⑥ 芸術文化の振興

#### 《 現況と課題 》

先人たちが築いてきた地域の歴史、伝統文化や芸術などを守り、継承していくことは、現代の私たちにとって大切な役割です。本町の文化は、町民主体の文化協会が中心となり、町民芸術祭の開催やサークル活動を通じて発展を遂げてきました。貴重な所蔵品を有する郷土資料館や焼尻郷土館は、一般開放のほか学校教育でも活用されるなど、町の歴史を語り継ぐ貴重な役割を果たしています。また、公民館などを活用した文化公演や芸術鑑賞により、本物の舞台芸術を鑑賞することで幼少期の情操教育をはじめ、市民の芸術文化に対する関心や意欲向上を図ってきました。

一方で施設の老朽化や文化協会などの関係団体の高齢化が進んでおり、次世代の担い手の育成が課題となっています。

#### 《 施策方針 》

- ・文化協会や関係団体への支援に努めます。
- ・芸術文化に触れる機会の創出に努めます。

- ・老朽化した施設の統廃合を検討し、利用者のニーズや満足度向上に向けた取り組みを目指します。

## ⑦ 生涯スポーツの振興

### 《 現況と課題 》

スポーツ公園は、公園施設長寿命化計画に基づき、引き続き優先度を考慮しながら老朽箇所を改修していく必要があります。

総合体育館は、通年利用される施設であり、武道館も併設されたことから、より町民が利用しやすい施設整備と運営を推進していく必要があります。

また、これまで築いてきた地域のニーズに合った事業展開のノウハウを活かしながら各種スポーツ事業の充実を図り、町民の体力向上や生活習慣病の予防など、心身ともに健康で充実した生活を送るためにも、誰もが気軽にスポーツ活動に親しみ、参加できる環境の充実を図る必要があります。

### 《 施策方針 》

- ・公園施設長寿命化計画に基づき老朽化したスポーツ公園の施設整備に努めます。
- ・総合体育館の運営、大規模改修工事など維持管理を適正に行い、利用しやすい環境整備に努めます。
- ・各種スポーツ事業を充実させ、誰もが気軽にスポーツ活動に親しみ、参加できる環境の充実を図ります。

## ⑧ 国際交流の推進

### 《 現況と課題 》

全国的に国際化が進展する中、本町においても技能実習生やインバウンド（※）の受入れが徐々に進んでおり、柔軟に対応できる人材の必要性が増しています。

本町では、長年にわたってボーイ・ガールスカウトや羽幌高校の国際交流活動などが行われていますが、今後も国際社会に対応できる人材育成のため、町内で暮らす外国人との交流機会や幼少期から外国語に接する機会の創出が課題となっています。

### 《 施策方針 》

- ・町内に暮らす外国人との交流や町民が国際文化とふれあう機会を支援します。
- ・国際社会に対応するための学習活動や人材育成を支援します。

※インバウンド…海外に在住している外国人が日本国内を旅行すること